

表の見方

要緊急安全確認大規模建築物 耐震診断結果公表内容

【小学校、中学校、特別支援学校】

番号	建築物の名称	建築物の位置	主たる用途	耐震診断の方法の名称	耐震改修等の予定		備考
					内容	実施時期	
*	▲▲市立▲▲小学校	▲▲市▲▲町▲	学校	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」	Is/Is0 = 1.15 CTU・SD = 0.84	-	耐震改修済み
*	▲▲市立●●小学校	▲▲市●●町●	学校	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」	Is/Is0 = 1.12 CTU・SD = 0.80	-	耐震改修済み
*	▲▲市立■●中学校	▲▲市■●町■	学校	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」	Is/Is0 = 1.07 CTU・SD = 0.51	-	耐震改修済み

耐震診断の方法の名称		耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価		
構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性				
		I	II	III
① (一財)日本建築防災協会による「耐震改修促進法」のための既存建築物の耐震診断および耐震改修指針に定める「第2次診断法」 ② (一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」 ③ (一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」	鉄骨が充て材の場合	Is/Is0 < 0.5 又は CTU・SD < 0.125・Z・Rt・G・U	左右以外の場合	0.6 ≤ Is/Is0 かつ 1.0 ≤ q
	鉄骨が非充て材の場合	Is/Is0 < 0.5 又は CTU・SD < 0.14・Z・Rt・G・U	左右以外の場合	1.0 ≤ Is/Is0 かつ 0.3・Z・G・U ≤ CTU・SD
	建築物の構造耐力上主要な部分が昭和56年6月1日以降にかけられる時点の建築基準法(昭和25年法律第201号)並びにこれに基き命命及及び各例の規定(構造耐力に係る部分(構造計算にあつては、地震に係る部分に限る。))に適合するものであることを確認する方法	-	-	確認できる

例:「▲▲市立●●小学校」の安全性の評価

①「耐震診断の方法の名称」について、一覧表および附表で一致するものを確認します。

②一覧表の「構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果」欄を確認し、附表の「耐震診断の方法の名称」から「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価」欄で該当するものを確認します。

③数値を基準値と比較します。
 $Is/Is0 = 1.12$ $CTU \cdot SD = 0.80$
 $1.0 < Is/Is0$ かつ $0.3Z \cdot G \cdot U < CTU \cdot SD$
 (Z・G・U=1.0)による
 安全性の評価は区分Ⅲとなります。

④附表の注意書きで、区分の詳細をご覧ください。
 ※Iso値については、0.6を採用しています。
 ※Z(地域指標)=1.0(建築基準法施行令による)、U(用途指標)=1.0、G(地盤指標)=1.0

(※)震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。いずれの区分に該当する場合であっても、連法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度6強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれなく、倒壊するおそれはない。